

「第 3 期荒尾市観光振興計画(仮称)(素案)」に対するパブリックコメントの結果と対応方針(案)

【実施期間】 令和 3 年 8 月 12 日～令和 3 年 9 月 10 日

【実施場所】 荒尾市役所庁舎内：（1 階）総合案内 （2 階）産業振興課、情報公開コーナー

荒尾市役所庁舎外：市民サービスセンター、メディア交流館、小岱工芸館、みどり蒼生館、万田炭鉱館、荒尾総合文化センター、市立図書館、市 HP

【実施結果】 いただいたご意見：23 件（2 人）

	ご意見の内容		ご意見に対する市の考え方
1	P.2	観光振興の意義 「道の駅あらお(仮称)基本計画」では、コンセプトとして移住・定住を挙げているが、連携して「移住」を入れるべきではないか。	本市では、最上位計画である「第 6 次荒尾市総合計画」のもと移住定住の促進に取り組んでおり、本計画においても、連携して取り組みます。 →（1）背景・社会情勢等の「定住促進」に記載
2	P.2	観光振興の意義 南新地土地地区画整理事業について、道の駅や温浴施設、宿泊施設という旧態依然とした組み合わせで観光客が増加するのか疑問である。官製観光は厳しい状況に追い込まれている中、温浴施設などが観光に大きく寄与するとは考えられない。目玉事業であった「ウェルビーイングミラー」はどうなっているのか。	南新地土地地区画整理事業においては、持続的で発展的な事業展開を図るため、民間活力を積極的に取り入れる手法によりまちづくりを推進しています。各種調査結果からも、観光に求めるものとして「おいしいもの・食」や「癒し・安らぎ」というニーズは高く、旅行のタイプとしても「食」や「温泉」へのニーズは高くなっているため、温浴施設や宿泊施設等に係る民間事業者の誘致に努めているところです。これらの状況も踏まえながら、交流促進につながるよう、「あらお海陽スマートタウン」のまちづくりに取り組みます。 なお、「ウェルビーイングミラー」については、現在、実証実験を重ねているところであり、令和 3 年 10 月にも本格導入に向けて事業性の検証などを行うこととしています。

3	P.2	観光振興の意義 持続可能な開発目標（SDGs）に向けた具体的な展開が少ない。	観光振興においては、地域内における多様な産業との連携や地域づくりとの連携が重要であり、連携のあり方によって多様な展開が考えられるため、全体として SDGs の目標を意識した取組みを推進することとしています。
4	P.3	観光振興の意義 「あらおファンの拡大」に向け、市職員、企業の方、一般市民も含め県外に出張等をする際、名刺交換と併せてマジックキーのシールを渡し、荒尾市を知ってもらう機会としてはどうか。	基本方針 2「情報収集の段階を踏まえた効果的なプロモーション」ー基本施策 1「「旅マエ」に対する情報発信の強化」の中で、官民連携によるプロモーションに取り組むこととしていますが、キャンペーンの際のみならず、市職員をはじめ、企業や市民においても積極的に本市の紹介をしていただけるよう、ノベルティの制作を含め検討します。 →基本方針 2ー基本施策 1ー具体的な施策⑤において記載
5	P.4	計画の位置づけと期間 各年度以外で取り組む事業についても進捗報告が必要。実施計画の作成を含め、毎年度どの部署でどのように検証を行うのか。	進捗管理については、特に関係が深い部署の課長職にある職員で構成する「荒尾市観光振興計画庁内連絡会議」で毎年度実施することとしており、実施計画を踏まえた各部署の取組状況等について多角的に検証することとしています。さらに、官民連携の組織である「荒尾市観光振興計画策定等委員会」においても、毎年度点検・評価を行うとともに、企画立案に関する協議も継続することとしています。
6	P.8	客室稼働率 宿泊客数と客室稼働率に鑑みると、現状でも令和 7 年の目標である宿泊客数 20 万人に対する供給能力は十分ではないか。「あらお海陽スマートタウン」に誘致する新たな宿泊施設は供給過剰になることが予測されるが、施設の収容人数と収支見込みを開示してほしい。	令和元年度に策定した「南新地地区ウェルネス拠点基本構想」において、顧客ニーズなどを踏まえたまちづくりコンセプトとして「有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお」を設定しており、「アクティブ」「リラックス」「自然的」「都会的」「先進的」の 5 つの要素でまちづくりを推進することとしています。有明海に面した豊かな自然環境をいかし、ゆったりとした時間の中で、「こころ」と「からだ」を癒すことができる空間づくりを目指していることから、その拠点として宿泊施設の誘致を進めているところです。既存の宿泊施設とは異なるコンセプトの施設を誘致することで、宿泊客の増加につなげることにしています。

			なお、施設の収容人数や収支見込みについては、複数の民間事業者と協議・調整しているところですが、最終的には民間事業者自らが経営判断を行うものと考えています。
7	P.9	教育旅行宿泊者数 SDGs や ESD、STEAM 教育を展開し、「教育観光旅行」を増やし市全体の浮揚を図るべきである。既設の観光施設だけではなく、新たな教育観光の目玉を作るべきである。	重点戦略③「高付加価値化による消費単価の増加」及び基本方針 1「魅力あるコンテンツづくりと売れる商品造成」ー基本施策 2「付加価値の高いコンテンツづくり」の中で、SDGs をはじめとする学校教育におけるニーズを踏まえたプログラムの造成に取り組むこととしています。また、荒尾玉名教育旅行推進協議会とも連携し、広域的な視点で施設選定を行い、プログラムの充実を図ることとしています。
8	P.9	教育旅行宿泊者数 農泊、漁泊への取組みは検討しないのか。	民泊については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前までは一定のニーズがあったものの、コロナ禍で市場が一変している状況があります。基本方針 1「魅力あるコンテンツづくりと売れる商品造成」ー基本施策 1「多種多様なコンテンツづくり」の中で、都市農村交流などのプログラム造成に取り組むこととしており、今後のニーズも見据えながら、民泊への展開も含め検討します。
9	P.10	主要観光スポットの来訪者状況 万田坑や宮崎兄弟の生家への来訪者が減少する中、R7 年度の目標達成に向けた具体的な施策を教えてほしい。観光 PR 動画で、万田坑で大人の女性がはしゃいで撮影している場面があったが、先人達が苦労した現場を思うと怒りさえ覚えた。	基本方針 1「魅力あるコンテンツづくりと売れる商品造成」ー基本施策 2「付加価値の高いコンテンツづくり」の中で、ガイドツアーの充実や施設整備も含めた内容のリニューアルなど、既存の体験プログラムのブラッシュアップに取り組むこととしており、スポットごとの詳細な取組みについては、実施計画で定めることとしています。万田坑のプロモーション方法については、今後、「炭鉱」自体に馴染みがない世代が中心となっていく中で、持続的に集客ができるよう、新たなターゲット層の開拓を目指し実施しているもので、関心を惹きやすくするよう工夫をしているものです。実際のガイドツアーにおいては、当時の状況を正確に伝承するとともに、満足度を高められるよう、高付加価値化を図ります。

10	P.14	成果と課題 表中に「未達成」とあるが、策定時の値を超えているものもある中、何を意味するのか。	計画期間の途中であり、評価が難しいところではありますが、成果や課題を明確にするため、経過を含めて検証しているものです。例え増加している指標であっても、R3年度の目標と比較して至っていなければ、便宜上「未達成」としています。
11	P.16	<u>観光スポット：万田坑</u> 構内員の作業服を着て作業する体験、レールバイク、鉄道敷ウォーク、いきなり団子・馬刺しなど熊本県を代表する食の提供 <u>観光スポット：荒尾干潟</u> テラーの電動化（脱炭素化）、荒尾市から長洲町へのウォーキングコースの整備 <u>観光スポット：小岱山</u> 一般の方も気軽に登れるような登山道の整備、小岱山一周マラソン大会の実施（関係する自治体と協働）	基本方針 1「魅力あるコンテンツづくりと売れる商品造成」ー基本施策 1「多種多様なコンテンツづくり」の中で、各スポットにおける新たな体験プログラムの造成やイベントを活用した魅力づくり、ご当地グルメを活用したプロモーションなどに取り組むこととしています。今後取り組む事業のアイデアとして、参考にさせていただきます。
12	P.16	<u>観光スポット：荒尾干潟</u> 荒尾干潟において観光客増加と渡り鳥の共生との両立が必要である。	荒尾干潟のみならず、各資源の保存・保護と利活用は両輪で進めるべきであると考えていますので、その旨を追記します。 →基本方針 1ー基本施策 1 の「目的・概要」において記載
13	P.16	観光スポット 海達公子、俊苅(しゅんじょう)律師、たたら製鉄などの記載がない。	「観光スポット」の選定に当たっては、集客状況のほかアンケートにおける認知度などを踏まえています。記載しているもの以外にも貴重な観光資源がありますが、全てを記載することは難しいため、ご理解ください。
14	P.20	本市の強み 「道の駅をはじめとする交流拠点の形成に取り組む」とされているが、「荒尾市保健・福祉・子育て支援施設(仮称)基本計画(素案)」では交流拠点	「あらお海陽スマートタウン」においては、複数のプロジェクトが同時並行に進んでいる状況であり、随時内容を擦り合わせながら計画をブラッシュアップしているところです。各施設の相乗効果を最大化し、交流拠点とすることを目指し、

		としては機能しない構想となっている。	一丸となって推進していきます。
15	P.23	重点戦略②の取組内容「マイクロツーリズム圏内へのプロモーションの強化」 まず観光地としての十分な整備をし、インフラを整えることを優先すべきである。ネットの普及によって、観光資源の魅力があれば勝手に口コミで広がるので、昔のように観光地が情報発信する必要性が薄れている。魅力的であれば来訪者が代わりに発信してくれ、逆に魅力が足りない場合、どんなに観光地が発信しても、観光客が持続的に来ることはない。	基本方針 1「魅力あるコンテンツづくりと売れる商品造成」ー基本施策 2「付加価値の高いコンテンツづくり」の中で、既存の体験プログラムも含めたコンテンツのブラッシュアップに取り組むこととしています。他方、各種調査結果から、近隣の地域においても認知度が低い観光スポットもあるのが現状ですので、来訪者による情報発信を促す取組みも含め、情報発信の強化にも併せて取り組みます。
16	P.25	数値目標 熊本県においては延べ宿泊客数を過去最高水準まで回復させることを目標とする中、数値目標の設定根拠を示すべきではないか。道の駅の来訪者年 37 万人を全て観光客としてカウントしても、200 万人超えがやっとだと思われる。	数値目標については、近年で最も来場者が多い年の人数を基準にしながら、社会情勢の変化や「あらお海陽スマートタウン」における誘客効果などを踏まえ、設定しています。今後誘致を進める民間施設なども含まれることから、詳細な積算により算出したものではありませんが、施設規模などに鑑み、妥当性のある数字であると考えています。
17	P.28	具体的な施策①「既存体験プログラムのブラッシュアップ・ガイドの確保・育成」 「万田坑ガイド」の一本化及び「干潟ガイド」、「まち案内人」を統合し、「荒尾観光ガイド」とする。	総合的な観光ガイドの充実についてはこれまでも取り組んできましたが、「荒尾市観光振興計画(第 2 期)の成果と課題」に記載しているとおり、担い手不足という課題があります。今後は、あらゆるガイドの統合も含め、安定的に収益が確保できるような持続可能な仕組みづくりに取り組みます。
18	P.33	基本方針 3「周遊しやすい環境の整備と宿泊の促進」の目標指標 現状大型ホテルの稼働率は高いが、20 万人という宿泊のキャパはあるのか。	既存の宿泊施設の稼働率の向上に加え、基本方針 3「周遊しやすい環境の整備と宿泊の促進」ー基本施策 2「「あらお海陽スマートタウン」・「道の駅」への誘客促進」の中で、「あらお海陽スマートタウン」への新たな宿泊施設の誘致に取り組むこととしています。

19	P.33	具体的な施策①「二次交通の利便性向上」 荒尾駅へのエレベーター設置について、「障害者差別解消法」から進めることはできないか。	JR 荒尾駅(世界文化遺産 万田坑駅)のバリアフリー化に向けては、エレベーターの設置のみならず、駅周辺地域を含めた一体的な整備により、利便性の向上や地域活性化につなげることをしています。
20	P.34	具体的な施策①「二次交通の利便性向上」 グリーンスローモビリティの導入	基本方針 3「周遊しやすい環境の整備と宿泊の促進」ー基本施策 1「ストレスなく楽しめる環境整備」の中で、グリーンスローモビリティも含めた次世代型モビリティの導入に取り組むこととしています。
21	P.34	具体的な施策④「Wi-Fi 環境の整備」 セキュリティ面から 2 段階設定が必要	導入に当たっては、セキュリティの強化にも併せて取り組みます。 →基本方針 3ー基本施策 1ー具体的な施策④において記載
22	ー	観光とスポーツ、観光と福祉、観光と防災、観光と農業など、他産業との結び付けを進めてはどうか。	「観光振興の意義」において、観光振興を通じ、他産業を含めた地域内のネットワーク強化により「地域づくり」を推進することを目指しています。また、基本方針 1「魅力あるコンテンツづくりと売れる商品造成」ー基本施策 1「多種多様なコンテンツづくり」の中でも、「自然」や「文化」など複数の要素を絡めた「アドベンチャーツーリズム」の推進に取り組むこととしています。
23	ー	障がい者に対する策がない。各観光施設において、障がい者が見れる環境にない。	基本方針 3「周遊しやすい環境の整備と宿泊の促進」ー基本施策 1「ストレスなく楽しめる環境整備」の中で、障がいの有無に関わらず、誰もが快適に過ごすことができるような環境整備に取り組むこととしています。移動だけでなく、それぞれの観光施設においても、障がい者などにもストレスなく楽しんでもらえるよう、案内の充実にも取り組みます。 →基本方針 3ー基本施策 1ー具体的な施策②において記載